



江工会会報

発行所
江 工 会

島根県江津市江津町1477
島根県立江津工業高校内
電話 (代) 0855-52-2120
郵便番号 〒 695-0011

「変わる江津市」

会長 土井 正 人

(工業化学科 昭和三十九年卒業)



平成二十九
年の新春を迎
えられ、皆様
方にはご健勝
のこととお慶び申し上げま
す。

今、江津は大きく変わろう
としています。新たな希望に
向けて動き始めています。

長年の懸案でありました、
駅前が見ちがえる様になって
来ています。シャッター通り
の姿も無くなりつつあります
(現在も工事中です)。多くの
市民の皆さんが集える遊空
間「パレット江津」が竣工し
ました。ホテルも開業し盛況
です。工業団地にも多くの企
業が進出して操業を始めまし
た。(団地が狭くなり今年度
より造成が始まります。)日
本製紙が元氣です。木材よ
り「ポスト炭素繊維」のカル

ボキシメチル化セルロースナ
ノファイバーの製造設備を
二十五億程かけて増設され、
国内初めての量産化に取り組
まれます。これにより十人程
の増員を目指しておられ雇用
が増加しており民間の企業に
元氣が出て来ております。
そこで、果たさなければな
らないのが人材の育成です。
優秀な人材を企業に送り出す
ための我が母校の役割は増々
大きくなってまいります。
母校を元氣にしなければな
りません。
二学科体制になったとはい
え、入学生の進学率は上がっ
て来ません。卒業後の出口は
充実しております。今年など
九百人近い求人、就職希望
五十名程です。十七倍近い求
人倍率、驚ろきを超えていま
す。

中学校よりの入学進学が増
加しないのは何故か学校関係
者、卒業生含め真剣に考えな
ければなりません。そのため
出来ることを、学校は市内の
小中学校に向いての出前授
業や、学校への体験入学、市
内外各地のイベントへの参加
などなど、物づくりの魅力
を伝えるため、地道ですが懸命
に努力を重ねております。こ
のことがいざれ実を結ぶと思
います。

県内の少子化はとどまるこ
とを知りません。特に石見部
は著しい限りです。各学校共
生き残りをかけ、地元進学を
進めています。更には、県外
生徒の受け入れに自治体、行
政がかかわっています。寄宿
舎、寮の整備なども行なって
います。多くは離島や山間地
の学校で、普通高校が主体で
す。三年間の在籍を目的とし
ている緊急な処置と思いま
す。我が校においては卒業後
をも含めた定住を考えた方策
が求められます。

他校の真似では駄目だと思
います。それには、学校と企
業の連携が重要と思います。
市内の企業と学校、更には
行政を含めた関係を密にし
て、将来に渡って江津に住み
続ける人材を育てることと思

「ご報告」

校長 井上 雅彦



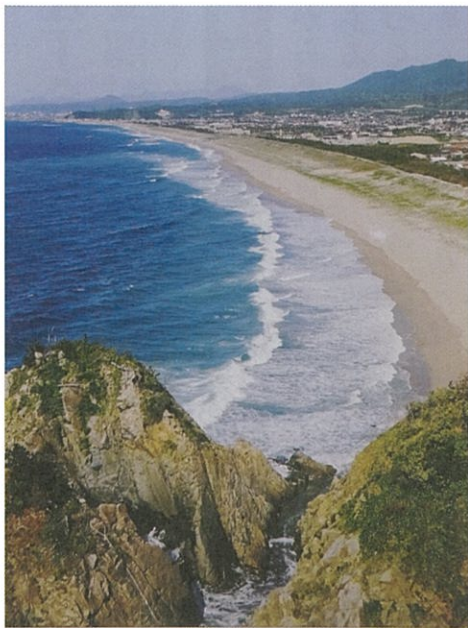
います。そうした時に、卒業
生の皆さんの力が必要になり
ます。

母校の存続と発展のために
力を貸して下さい。
今年が明るい年になること
を願って挨拶とさせていただきます。

江工会員の
皆様には、新
春をお元氣で
お迎えのこと
とお慶び申し上げます。平素
より、本校の教育活動に格別
のご理解とご協力を賜り厚く
お礼申し上げます。
今年度は、学科改編後、初
めての入学生七十六名を迎え

てスタートしました。内訳は、
建築・電気科四十名、機械・
ロボット科三十六名です。前
年度入学生に対し十六名の生
徒増であります。県教育委
員会の決定により三学級から
二学級へと学級減がなされて
おります。

本県において、年間五千人
程度の人口減少が続いてお
り、高校へ進学する生徒もそ
れに応じて減り続けていま
す。県教育委員会は、このよ
うな現状を踏まえ、社会の変
化や生徒のニーズの多様化等
に対応した高校教育の在り
方、及び生徒数の減少等に対
応した高校の在り方について
の検討を目的とした、学識
経験者等十二名の外部委員
で「今後の県立高校の在り方
検討委員会」をこの四月から
立ち上げました。この委員会



角の浦

は、月一回のペースで検討会
を行っておりますが、具体的
な検討事項として、学校の統
廃合等「器」の在り方につ
ては除外されています。

特に、本校に最も関わりの
深かった、今年度前半の検討
内容について報告したいと思
います。

最初に、「江津市・浜田市
の要望を踏まえた江津市・浜
田市エリアの県立高校の可能
性」について議論がなされま
した。その中で、地域の実態
についてそれぞれの地元へ各
委員が出向き、公開の場で意
見公聴会が九月に実施されま
した。公聴会では、地域を支
える経済界・青年・女性等幅
広い分野の方々から意見陳述
をしていただくことになりま
した。

江津地区では、地元誘致企
業の「トップ金属株式会社
常務取締役」林田栄三氏、そ
して本校卒業生の「島根県・
江津市産業人材育成コーデ
ィネーター」横田 学氏から江
津市及び石見地域における工
業教育の必要性について力強
い意見をお話しいただきました
。また当日は、土井会長様
をはじめ卒業生の方々がこの
公聴会に出席され、今後の会
の行方について深い関心を示

されました。

委員会では公聴会での意見
陳述や四月から行われた六回
の検討会を経て、次に示す五
つの項目を議論のまとめとし
ました。

一つ目は、「普通科、専門
学科とも、石見部全体での位
置づけの中で議論すべき。」
二つ目は、「時代的な要請、
生徒の進路志向、地域のニー
ズなどを踏まえた議論が必
要。」三つ目は、「これまでの
枠組み（工業、商業、農業な
ど）を超えて構想することも
必要。」四つ目は、「中高一貫
教育の新たな枠組みについて
も研究が必要。」五つ目は「選
択肢を増やす観点から、新た
な学科のカリキュラム研究も
必要。」です。今後は、江津
市エリア・浜田市エリアにつ
いて先行して議論するのでは
なく、新たな学習指導要領の
時代がやってくることを踏ま
え、県全体の高校教育の方向
性について検討し、最終答申
は当初の予定より五ヶ月延伸
し、平成二十九年十二月に決
定しました。

非常に多くいただいておりますが、近年県内就職希望者が
増え続け、今年は企業・公務
員内定者の六十一%が県内へ
残り、地元産業を支える状況
です。人口流出が続く石見部
において、地元志向の高まり
は大変喜ばしいことだと考え
ております。更に、就職試験
の一次突破率が九十六%を超
え、殆どの生徒が第一希望の
会社内に定めています。また、
進学希望者も十二月の段階
で、一月の合格発表を待つ生
徒一名を残し、全員第一希望
の進学先に合格しました。進
路状況については順調な推移
を示しておりますが、高校を
目指す中学生にとっては「就
職率100%」が大きな魅力に
なっていないことも生徒募集
をしながら実感しています。

今後は、地域の小中学校との
連携を更に深め「ものづくり」
の楽しさを教え、江津工業高
校への進学希望者を増やすこ
とに力を傾けたいと考えてい
ます。

末筆になりましたが、今後
もかわりませず江工会の皆様
のご支援やご協力をお願いす
るとともに、江工会がますます
充実発展されることをお祈
りいたします。



江津支部

地域から必要とされる
魅力ある
学校づくりを!!

事務局長 横田 学

(工業化学科 昭和四十三年卒業)



江津市にあ
る県立高校の
在り方検討の
公聴会が開か
れた。今後どんな方向が示さ
れるかは分からないが、先
ず！地域から愛され必要とさ
れる工業高校の魅力づくりを
学校と江工会と地域としま
り連携して行こうではない
か！

③ 関西支部年次総会出席、
六月四日(土) 於…ホテル
ホッピンアミミング(尼
崎)

・土井会長、井上校長、
横田出席。

④ 江津地区中高生合同夏合
宿!! 八月十八日(金) 十九
日(土) 於…少年自然
の家。二高校十名・四中
学十四名 六校二十四名
参加。

地元企業(イーグルハイ
キャスト・有福振興)を
見学し、江津市の課題と
併せて、企業課題を明確
にしてその対策を発表し
た。

⑤ 県立高校公聴会に出席意
見を述べた。九月十三日
石央地域地場産業振興セ
ンター

⑥ 工業高校生とポリテク生
の合同企業ガイダンス!
十二月十二日(月)於…工業
体育館

・地元企業二十五社(昨年
十七社)参加による石見
地域産業を支える人材育
成校として認識を新た
にする事と生徒の意識
高揚を狙って開催した
(百八十三名参加)。

② 関東支部年次総会出席、
二月二十二日(日) 於…東
海大学校友会館(霞ヶ関
ビル)

・大賀美校長、高月事務局
長、横田 出席。

江津市役所支部

支部の報告

支部長 島田 博

(建築科 昭和五十一年卒業)



会員の皆様におかれましては、お健やかに新年を迎えることとお慶び申し上げます。

昨年度より引き続き支部長をさせていただいております。

歌手の「山崎ていじ」氏は、建築科同期です。一月に新曲が出ますので、皆様応援を宜しくお願いします。

さて、今回は、新加入の栗野雄人さんより、本会に入会しての感想等を紹介いたします。

江工会江津市役所支部

栗野雄人

(総合電気科 平成二十七年卒業)



皆様、あけましておめでとうございます。

私は、平成二十七年に総合電気科を卒業しました。現在、昔からの夢であった消防士になることができ、地元で働いています。

平成二十八年四月に開催された、江工会江津市役所支部の歓迎会に初めて参加させていただきました。最初は、とても緊張していましたが、会が進むにつれ、先輩方の優しさを実感し、時間が早く流れ、とても楽しい時間でした。また、先輩方の経験談や江工会の思いなどの話を聞いたことは有意義な時間を過ごすことが出来たと思っています。

まだまだ若く、未熟者ではありますが、元氣よく江工会を盛り上げていけるように頑張りたいと思いますので、先輩方のご指導・ご鞭撻宜しくお願いします。

歓迎会に参加したメンバーの集合写真。

江工会市役所支部歓迎会

浜田支部

親子二代地域に

根ざして

幹事 岡本正友

(建築科 昭和四十六年卒業)



あけましておめでとうございます。会員の皆様には

新年を迎え益々ご健勝にご精励の事と思います。昨年は熊本地震など天災の年と云っても過言でない不安な一年でした。

被災された方々には衷心よりお見舞い申し上げます。人生の様々な災いに挫けることなく、不撓不屈の精神の気概をもって頑張ってください。石見の地より祈っています。

本年六十五歳になる私は、ゼネコンを中途退職して、ふる里に帰ってきたUターン組みです。東京で生まれた長女は地元の普通高校に、下の長男は私と同じ母校の江工の建築科に進学しました。

スポーツに燃えた親子二代の高校時代は、目標に掲げた全国大会へ出場することが出来ました。

チームメイトと整列する柔道着の「江工」の刺繍文字が誇らしく感じた記憶がよみがえります。

息子は進学後に地元就職し地域に根ざして頑張っています。

地域活動や仕事を通して、退職後に地元でUターンされてこられた方々に出会った、毎年行われる浜田支部総会の様子や江津工業高校の現状や江工会の活動を紹介しな

がら、会員の拡大と友好を図っています。

現役組の皆さんには、産業戦士の卒業生の踏ん張りをカシフル剤に代え、同門の友情と協調を図りながら、ご活躍をされることを期待しています。また引退組の諸先輩にはまず健康第一

に、第二の人生に果敢に挑戦してみたいと考える昨今です。



浜田支部総会

弥栄支部

江工会弥栄支部雑感

支部長 森下政昭

(建築科 昭和五十三年卒)



新年あけましておめでとうございます。会員の皆

様には、ご家族お揃いで新年を迎えられた事とお喜び申し上げます。

て支部長を仰せつかることとなりました。未熟者ではございますが今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

私たちの弥栄支部は人数が少ないながらも細々と続いております。他の大きな支部に比べると大変恥ずかしくなるような小さな支部ではございますが、折角江工会会報に載せていただけるのですから今一度振り返って沿革をご紹介します。

約三十年近く前、昭和の終わり頃だったと思いますが、職場の先輩(もちろん江工の先輩)が他の高校の卒業生会をみて、「自分達もやろうじゃないか、おまえ弥栄に住んでいる卒業生を調べて声がけしてみろ。」と言われ、卒業者名簿をみてひたすら声をかけ、最大四十名近くで「弥栄江工会」発足し、年に一回の飲み会で親睦を図ってきました。次第にマンネリ化してきたため年会費徴収、活動参加への再確認、理事の選考等を行い、併せて江工会弥栄支部として本部へ登録していただいた次第です。

これまでの反省も踏まえつつ、年一回の総会(飲み会?)だけでなく、何かやろうと、支部旗の新調をしたの

を始め、納涼焼肉会の開催や学校訪問にあわせて江津市内での交流会、江津市民レガッタへの参加等の支部活動の企画、実施をした時期もありました。

昨年の総会が第三十回、時は流れ少子高齢化が進み、当地から江工へ進学する子どもたちも少なく新たな会員もいない中で、年一回の総会のみ開催と先細りする感はありませんが、できるだけ続けていきたいと思っております。



弥栄支部

益田支部

「初春を迎えて想う」

支部長 大石 環

(建築科 昭和三十八年卒業)



あけましておめでとうございます。おめでとうございます。

会員の皆様、益々ご健勝でご活躍の事と思っております。

今年も大変な自然界の猛威に襲われた一年と成り今まで経験の無い災害等で甚大被害を受け日本列島が痛めつけられ、いや日本でだけでなく世

界的に異変に見舞われ一刻も速い復興が望まれる昨今であります。

我が益田支部は毎年年末には定期総会を実施しており会員の絆を深めて強い団結力を保っております。

江工会土井会長、事務局榎野様には支部の総会の機会には出席頂いて、学校の近状等説明を詳しくお聞きしており現状可なり厳しい状況であり各支部の会員様も非常に心痛されておられ現実状況を強く受け止め、学校再編成基本計画に伴う今後の成り行きが心配で在り、本部・各支部が一丸と成り支援協力をどんな形でもやっつけていかねばならないと強く想う所であります。こんな時だからこそ会員共々団結して今後の江津工業高校の存続を願い、最後に会員皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます。

関東支部

「母校を取巻く社会環境の変化と江工会活動について」

副支部長 勝田友治

(電気科 昭和三十八年卒業)

明けましておめでとございます



います。会員の皆様は健やかな新年を迎えられたことお慶び申し上げます。

平成二十六年十月十日、江津工業高校創立八十周年記念式典が島根県教育委員会教育監を筆頭とした御来賓・PTA・江工会会員・生徒等大勢出席のもと、盛大に行われました。

記念講演で関東支部西村支部長が「今後、九十・百周年記念行事が開催できるよう母校の継続・発展を願う」と纏められました。

翌年、平成二十七年一月、少子化が進んでいる江津市・浜田市で「県立高校の在り方検討委員会」が立ち上げられ、三月末に検討結果報告書が提出されました。江津市は市民からパブリックコメントを募集され江工会員からは十三通(全体で二十通)の意見書が提出されました。その後、江津市は両文書を県教育委員会へ意見書として提出されました。

の発表がありました。県の学校再編成基本計画によると、一学年二クラスは統廃合の対象になります。

平成二十八年四月より県教育委員会の諮問機関として「今後の県立高校の在り方検討委員会」が発足し(委員十二名、平成二十九年十二月中(六ヶ月延長)に検討結果報告書提出予定)、委員会は毎月開催されています。平成二十八年九月には江津市・浜田市で「地域の意見公聴会」(傍聴者各三十名、四十名)が開催されました。小生は帰省、両会場へ出席し、各市長の教育等に対する考え方、意見陳述者(各会場四名)の意見を傍聴しました。両市の教育に対する考えに大きな相違があることに希望と落胆を感じました。

学校再編という環境の中で母校が存続する為に江工会としてどのようにすべきか、今までの活動状況を考慮して下記の提案を致します。

- 一、会則の改定(平成二十七年、本部理事会・総会で提案済み)概要 ①組織の改革、②財源確保、③年間予定表作成、④支部活動支援(休眠支部の復活も)、⑤その他
- 二、母校存続の為 ①学校支

援委員会活動内容の公開、
②会員・市町議会議員による行政への強力な要請推進、③経営者(起業家)による学校支援(インターシップ、採用等)、④学校教育支援(実習・部活等)..
⑤母校のPR(中学生へ就職率・地元就職、部活(ボート、弓道、自動車等)、県の強化指定クラブ)、⑥その他

三、地方創生の起点とした母校支援 ①学校支援委員会のメンバー見直し(産(商)工会議所を含めて、官(国・県・市町) ③学(母校・PTA・中学校・ポリテク・大学)、金(金融)、報(マスコミ)、同窓会、その他)

*某衆議院議員(現役・地方創生関係)の言葉 行政は「やりっぱなし」、民間は「まかせっぱなし」、市民は「無関心」。この言葉を起点・反発点にして母校を支援すべきと考えます。

*母校は地方創生の目玉です。人口減少の激しい石見地方で唯一の工業高校、企業誘致の為に必要な母校です。三年間お世話になった母校が存続するように「会員の知恵を結集する」よう本部の強い

リーダーシップに期待していただきます。関東支部は全力で協力・支援を致します。



関東支部総会

様方のこれまで以上のご協力をいただくという条件で引き受けることと相成りました。宜しくお願い致します。

さて、昨年は様々な出来事が世界中で多発しており、政治・経済はもとより、自然災害での地震・台風による豪雨・竜巻とこれまでになかった様な規模で、猛威を振るい大きな被害が発生し、改めて自然災害の怖さを思い知らされました。今年こそは、穏やかな年になることを願っております。

関西支部 「新たな旅立ちに、向かって」

支部長 岡 本 克 己

(建築科 昭和四十二年卒業)



会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。ございます。

新たな気持ちで、新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

昨年の、役員改選で風早前支部長より、非常に重たいバトンを渡されました。なかなかの重責ですが、新役員の皆

総会には、本部より土井会長、学校より井上校長先生、関東支部から吉迫幹事・小笠原幹事の二名、江津支部より横田事務局長の出席をいただき、そして、初々しい三名の新卒者も駆けつけてくれました。総勢七十名、また、懇親会ではアトラクションとして、第一部で「石見神楽」、第二部では「山崎ていじ」オンステージと盛沢山で会員の家族・知人・会社の同僚の方、そして、「山崎ていじ」のファンクラブの方々も特別参加されました。第二部の懇親会は総勢百十名の皆様方に参加いただきました。 「石見神楽」では、雄大な五頭の大蛇が舞い、そして「山崎ていじ」オンステージではファンクラブの方々のペンライトの舞いと大いに盛り上がり、又、充分に堪能いただけただんではないかと思えます。

しかし、この伝統ある「江工会」も、会員の皆様方の高齢化に伴い参加される方が、年々少なくなってきています。が、新役員も若返り「何くそ負けてなるものか・・・」の江工魂で新たな趣向を凝らし、会員の皆様方が参加し易い様に、新役員一同頑張っております。又、母校も少子化の影響で存続が危ぶまれておりますが、江津工業高等学校が存続できてこそ、我々の「江工会」も存続できるわけですので、学校・江工会本部・各支部及び会員の皆様方の英知を結集して、学校の存続に向けてガッチリとスクラムを組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、江工会の会員の皆様方のご多幸と

ご健勝そして母校の存続と発展を御期待し、心よりご祈念申し上げます。



関西支部第60回記念総会

山口県支部 「今年度の江工の発展を祈願」

支部長 大 屋 節 雄

(工業化学科 昭和三十八年卒業)



皆様、明けましてお目出度うございます。ここ山陽路では、正月三が日は晴天に恵まれない新年となりました。

さて、今年の江津工業高校は三学科から二学科に縮小されておりますが、更なる統合化の話も出ているようです。追い打ちをかけるように三江線廃止が現実となっておりまして。しかし江津工業高校のホームページを見る限りでは、在校生の授業風景

クラブ活動風景が紹介されており、生徒の活躍している姿がよく分ります。

山口県支部におきましては、昨年二月二十八日に支部総会を開催いたしました。本部より池田副会長、沖田事務局をお迎えし、また九州支部からは三名をお迎えし、二十三名の参加者で盛大な総会となりました。

総会は、毎年各地区が持ち回りで開催しており、今回の開催は徳山地区の担当でした。平成二十九年は、宇部地区の担当で、山口湯田温泉で四〜五月に総会を開催すべく一月二十二日に運営委員会を開催し、細部を詰める予定でいます。

山口県支部も、高齢化と共に参加者が少なくなっています。今年度から、総会と言っよりは、江津工業卒業OB生の懇親会的な形に軌道修正をする方向で調整しているところです。

また、九州支部からは、人員が少なく支部を解散するとの話が出ております。山口県支部総会に参加を希望される方には、案内をする予定でおります。

景気のいい話はありませんが、山口県支部総会に集まる人達は、かつて同じ釜の飯を味わった者同士です。酔いが回ると気心が一つになり、和気あいあいとなり大いに語り、若かり

し頃の思い出を酒の肴として、場はいつも盛り上がり、懇親を深めております。

これからも一同元気でいる限り、山口県支部総会を続けていく所存です。

終わりに江工会本部の益々の発展と皆様方のご多幸をお祈りしております。



山口県支部総会

九州支部

支部の現状

支部長 青 木 靖 長

(建築科 昭和四十年卒業)



新年明けましておめでとうございます。うございませう。

新しい年を迎え会員の皆様方、如何お過ごしでしょうか。

九州支部の会員数は現在十四名で、皆さんが後期高齢者を迎え、総会参加者も六名で近隣の山口支部の応援を得て何とか総会の態を為して

いる次第です。昨年八月には、九州支部存続の有無について、支部会員にアンケート調査を行いましたところ、廃止やむなしが十名、気軽いグループとして活動一名、判断不可一名、回答無し二名、廃止希望者が十名と過半数を越えましたので、残念ながら廃止する事に決定した旨を、全会員に九月末に通知を致しました。廃止やむなしの中の半数の方は、海峡を挟んだ向かいの山口県支部下関地区への参加を希望する方も居られますので、山口県支部には近々にご相談に伺おうとしております。

結果につきましては、後日ご報告致します。

なお、総会の度に九州支部にご協力戴いた山口県支部の方々には深く感謝申し上げます。

本当に永い間、支えて戴き有難うございました。全員の皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



九州支部総会

同窓会

五月二十六日

機械科三十一年卒(元機合)

元機合喜寿記念同窓会を江津「パレス和光」で開催。同窓会開催前に母校の校内を見学(機械科実習室等)。その後、島の星展望台より江津の風景を観望しました。参加人数は、十二名。

懇親会では、石見神楽を堪能し、大いに盛り上がりました。



八月十四・十五日
建築科四十九年卒

藤田佳久

我々四十九年卒業生は卒業以来幾度か同窓会を行って来ましたが、平成二十年以降は四年に一度のオリンピックの年に行うこととしています。今回は二十二名の参加で江

津市の有福温泉で行いました。

卒業して四十二年、皆が還暦を迎えたことで、卒業写真を撮った校内中庭池の周辺、当時の並びで還暦記念写真を撮影し残そうと企画しました。

今は池には水も無く、植樹がされ様相は変わっていましたが、背景の校舎は卒業時と変わらない佇まいで撮影する



ことができ、良い思い出を作ることが出来ました。

事務局だより

平成二十八年
一月〜十二月

二〇一六(平成二十八)

二月二十日

会報五十号発行

県内外各支部、卒業生在籍地元企業、現旧教職員、在校生、同窓会等に配布。

二月二十一日

関東支部総会

霞が関ビル35階東海大学校友会館

二月二十八日

山口県支部総会

予算についての審議がありました。懇親会では、橋本清春先輩(建築科S十六年卒)による「霞ヶ関ビル新築当時の思い出」が発表され、当時の最先端の建築技術や苦労話が語られました。山崎ていじさんの新曲も披露され盛り上がりました。

西村 和也(建築科S四十七年卒)支部長はじめ八十一名の会員、七名の来賓が出席されました。

総会では、前年度の活動(事業)や決算の報告、本年度の活動(事業)計画や

徳山 サンプルト徳山 大屋節雄(工化科S三十八年卒)支部長をはじめ二十名の会員が出席されました。前年度の活動(事業)や決算の報告、本年度の活動(事業)計画や予算の審

議がありました。役員改選が行われ、副支部長に湯浅正人(機械科S四十一年卒)が選出された。次回は宇部地区が担当になりました。懇親会では、カラオケ大会等で多に盛り上がりました。

三月十三日

弥栄支部総会

ふるさと体験村にて開催。大谷 十三一支部長(工化科S四十五年卒)をはじめ八名が出席された。

二月二十九日

新卒者入会式

江工会入会式(平成二十七年卒業生七十六名)江工会会長 土井 正人氏(工業化学科S三十四年卒)より式辞をいただく。

三月五日

九州支部総会

ホテルクラウンパレス小倉にて開催。大草 正(建築科S三十一年卒)支部長はじめ十一名の会員が出席。山口県支部から四名が参加された。総会時では本年度の事業・決算が報告された。役員改選もあり、新支部長に青木靖長氏(建築科S四十年卒)が選出された。懇親会では、今後の母校存続について、先輩方々より熱く語っていただいた。

五月二十一日

江工会理事会・総会

理事会では、土井 正人会長(工化科S三十九年卒)の挨拶から始まり、二十七年事業・決算報告、役員改選、二十八年事業・予算審議。江工会会則の改定など、すべての議案が承認

されました。

懇親会では、各支部からの出席もあり親交を深めることができました。



六月 四日

関西支部総会

支部発足六十周年の記念総会がホテル「ホップイン・アミング」で開催された。

総会では風早支部長挨拶、事業報告、監査報告、役員改選で新支部長に 岡本 克己(建築科S四十二年卒)が選出されました。土井会長挨拶、井上校長先生より学校の近況。懇親会ではアトラクションとして、第一部で「石見神楽」雄大な五頭の大蛇が舞い、第二部では「山崎ていじ」オンステージと盛沢山で大いに盛り上がった。

六月十一日

浜田支部総会

ジョイプラザにて開催。松浦 三男 支部長(電気科S四十年卒)はじめ三十名の会員の出席。懇親会には、総勢三十一名の出席があり、最後には、佐々木 敏博 事務局長(機械科四十二年卒)によるトランペット演奏にて、応援歌、校歌を歌い、大変盛り上がった。

十一月二十五日

益田支部総会

ちるちるみちる駅前店にて開催。佐々木忠之(電気科S三十九年卒)支部長様はじめ十一名が出席された。総会では佐々木支部長様挨拶、事業報告、監査報告が実施された。尚、益田支部の支部長に大石 環様(建築科S三十八年卒)が就任され、佐々木様は支部顧問となれることが、承認された。総会に引き続き、懇親会が実施され、おおいに盛り上がった会となった。本部より楢野事務局長が出席。



謹んでお悔やみ申し上げます。

旧職員

角 幸男(木業S28年卒) 電気科

会員

立川 澄男(建築S27年卒) 大屋 武平(建築S30年卒) 山本 芳(機械S31年卒) 野木 充弘(建築S33年卒) 佐々木由行(建築S34年卒) 山本 征典(建築S34年卒) 渡邊 一男(機械S34年卒) 谷本 青春(建築S47年卒)

編集後記

多忙な折り、快くご寄稿いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。おかげさまで第五十一号を発行することができました。

なお、今後とも、会報に對しましてご意見、情報等(同窓会報告、会員消息等)がございましたら事務局へご連絡をお願い致します。

(事務局 倉本)



平成27年度 江工会一般会計 決算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 繰越金	1,148,932	0	1,148,932	1,148,932	0	H26年度一般会計より
2 会費・入会金	831,600	0	831,600	829,857	1,743	H27年度卒業生終身会費
3 寄付金	10,000	0	10,000	10,000	0	総会お祝い (関西支部)
4 繰入金	0	0	0	0	0	
5 雑収入	68	0	68	155	△ 87	預金利息
収入合計	1,990,600	0	1,990,600	1,988,944	1,656	

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	県高校工業教育研究会へ
2 会報発行費	360,000	0	360,000	281,100	78,900	平成26年度発行分 平成27年度発行分
3 記念品費	46,200	0	46,200	34,650	11,550	卒業生へ記念品 (角筒)
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	会館運営会計へ
5 通信費	25,000	10,000	35,000	33,517	1,483	総会案内・会報送付
6 旅費	350,000	0	350,000	237,408	112,592	各支部総会出席旅費
7 会議費	200,000	0	200,000	162,281	37,719	各支部総会御祝い
8 慶弔費	30,000	0	30,000	11,295	18,705	弔電
9 雑費	30,000	0	30,000	6,804	23,196	卒業生応援広告料
10 積立金	0	0	0	0	0	
11 予備費	789,400	△ 10,000	779,400	0	779,400	
支出合計	1,990,600	0	1,990,600	927,055	1,063,545	

収入総額 ¥1,988,944円 - 支出総額 ¥927,055円 = 差引残額 ¥1,061,889円

平成28年度 江工会一般会計 予算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 繰越金	1,061,889	0	1,061,889	1,148,932	△ 87,043	H26年度繰越金
2 会費・入会金	853,200	0	853,200	831,600	21,600	H27年度卒業予定者 77名分×10,800円
3 寄付金	10,000	0	10,000	10,000	0	支部からの御祝い
4 繰入金	0	0	0	0	0	積立金会計より繰入
5 雑収入	111	0	111	68	43	預金利息
収入合計	1,925,200	0	1,925,200	1,990,600	△ 65,400	

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	県高校工業教育研究会へ
2 会報発行費	150,000	0	150,000	360,000	△ 210,000	第51号2000部発行予定
3 記念品費	46,200	0	46,200	46,200	0	卒業生への記念品
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	江工会館運営会計へ
5 通信費	35,000	0	35,000	25,000	10,000	総会案内・会報送送料
6 旅費	350,000	0	350,000	350,000	0	各支部総会出席旅費
7 会議費	200,000	0	200,000	200,000	0	各支部総会御祝い 等
8 慶弔費	30,000	0	30,000	30,000	0	弔電・祝電
9 雑費	30,000	0	30,000	30,000	0	広告料
10 積立金	0	0	0	0	0	
11 予備費	924,000	0	924,000	789,400	134,600	
支出合計	1,925,200	0	1,925,200	1,990,600	△ 65,400	